

来年4月、中央大学附属中学校が開校

中高一貫教育で、大学の基幹学生育成



満員盛況となった
第1回説明会
入試情報に
父母らが熱心にメモ

2010年4月に開校される中央大学附属中学校の第1回説明会が5月16日（土）、東京都小金井市の中央大学附属高等学校で開かれた。説明会には、予想を上回る約1300人が訪れ、会場の附属高校講堂はほぼ満席の盛況となった。出席された中学受験を控えた小学生連れの父母のみならずの中には、熱心にメモとる姿が目立ち、附属中学に対する関心の高さをうかがわせた。

小金井市の附属高校に併設 3年間で60冊の課題図書

説明会会場の講堂前には、会場が開かれる1時間ほど前に早くも数十人の行列ができ、

午前10時の開始時刻までに父母が続々と来場され、全1564席の講堂は、ほぼ満席となった。説明会では、まず附属中設立準備室長の三枝幸雄・附属高等学校校長（法学部教授）



長蛇の列ができた講堂入り口

が、あいさつ。中央大学創立125周年を迎える2010年に附属高校に併設される附属中学が、「中央大学の基幹学生を育成することに十分に応えられると確信している」と述べ、中高一貫教育の意義を強調した。

三枝校長は、附属高校では3年間に課題図書100冊を読破し、8000字の卒業論文を書くことになっていることを紹介し、「附属中学でも60冊の課題図書を掲げ、国語教育を重視して生徒の基本的な学習能力を高めたい」と説明。また、「通常の英語の授業とともにネイティブスピーカーの授業を充実させ、外国人を身近に感じ、楽しく学んでもらう」と国際コミュニケーション能力を身につけるための英語教育に力を入れることを強調した。

さらに三枝校長は、大学進学までの6年間の中高一貫教育で、「自分の頭で考えて判断、行動し、自分自身の資質と適正に合った道を進むことの大



真新しい附属中の校舎を見学する参加者ら

切さ、すばらしさについて考えてもらう」などと述べ、キャリア教育をはかっていく考えを明らかにした。

1学年150人で1クラス30人 コーディネートできる制服

続いて附属高校の代田貴文副校長（設立準備室副室長）が、附属中学の全体像について説明した。附属中学は、高校、大学と連携して、「明るく、強く、正しく」の校訓のもとに、男女共学の1学年150人、1クラス30人の少人数学級で編成。▽中大の質実剛健を基盤に知育・徳育・体育の調和ある教育活動を展開する▽中大の基幹生徒・学生を育成する▽自主・自治・自立の精神を尊重し、自由に個性を伸ばすとともに自由と責任を重んじる人材を育成すること



中附スタイルの制服



ほぼ満席となった説明会会場の講堂

を教育理念・目標とする。また、カリキュラム編成は、▽中高一貫した計画的、継続的な学習の展開▽教科の枠組みを超えた総合的な基礎学力の確立▽考える力、感じる力の育成▽国際人としてのコミュニケーション能力の獲得▽理論的に思考する力・科学的に把握する力の涵養―を基本方針にする。

学校生活では、制服については、複数のアイテムの中からコーディネートできる制服を用意し、オリジナルファッションを楽しむことができる。昼食では、週に1回クラス全員で同じメニューのスクールランチをとり、「食育」として健康、食文化、テンプルマナー、食糧問題について考える。最後に代田副校長は、入学試験については国語、算数、社会、理科の4科目で、面接はないことを説明し、東京都の設立認可が下りる9月に入試要項を配布する予定であることを明らかにした。

新校舎は地下1階地上5階 体育館や人工芝のグラウンドも

このあと説明会では、入試出題方針について4科目の担当教師がそれぞれポイントを解説。中学受験を目指す児童の保護者は、熱心にメモをとりながら、聞き入っていた。

附属中学は、附属高校に隣接する約9400平方メートルの敷地に、地下1階地上5階の校舎と体育館、それにフットサルやテニスなどが楽しめるオール人工芝のグラウンドを擁する。説明会のあと参加者は、真新しい校舎の外観を見学しながら施設・環境の整った附属中学での勉強、生活に思いを馳せていた。

説明会は全6回行われ、第3回以降は7月11日、9月12日、10月17日、11月7日の午前10時から、附属高校講堂で開催する。

(編集室)